

研究主題

言語活動を充実させ、生きる力を育む学習指導のあり方

～自分の思いや考えを正確に伝え合うことを目指した「書く」活動を通して～

主題設定理由

(1) 学習指導要領の基本的な考えから

知識基盤社会の到来や、グローバル化の進展などの急速に社会が変化する中、次代を担う子どもたちには、幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて判断することや、他者と切磋琢磨しつつ異なる文化や歴史に立脚する人々との共存を図ることなど、変化に対応する能力や資質が一層求められている。一方、近年の国内外の学力調査の結果などから、我が国の子どもたちには、思考力・判断力・表現力等に課題がみられる。これら子どもたちを取り巻く現状や課題等を踏まえ、平成 17 年 4 月から、中央教育審議会において教育課程の基準全体の見直しについて審議が行われた。

この見直しの検討が進められる一方で、教育基本法、学校教育法が改正され、知・徳・体のバランスを重視し、学校教育においてはこれらを調和的に育むことが必要である旨が法律上規定された。さらに、学校教育法第 30 条の第 2 項において、同法第 21 条に掲げる目標を達成する際に留意しなければならないことが、次のように規定された。

生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技術を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。
〔学校教育法第 30 条の第 2 項より〕

ここには、学力の重要な 3 つの要素が示されている。

- ① 基礎的・基本的な知識や技能
- ② 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等
- ③ 主体的に学習に取り組む態度

これらを踏まえ、中央教育審議会は、平成 20 年 1 月に「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」を答申した。この答申においては、学習指導要領の改訂の基本的な考え方として、次の 7 点を示している。

- ① 改正教育基本法等を踏まえた学習指導要領改定
- ② 「生きる力」という理念の共有
- ③ 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- ④ 思考力・判断力・表現力等の育成
- ⑤ 確かな学力を確立するために必要な授業時数の確保
- ⑥ 学習意欲の向上や学習習慣の確立
- ⑦ 豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実

上記の基本的な考え方を踏まえつつ、学習指導要領の改訂に当たって充実すべき重

要事項の第1として「言語活動の充実」を挙げ、各教科等を貫く重要な改善の視点として示した。

平成20年3月に公示された小学校学習指導要領の総則には、言語活動の充実について、以下のように記述されている。

学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、児童に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。その際、児童の発達段階を考慮して、児童の言語活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、児童の学習習慣が確立するように配慮しなければならない。

[小学校学習指導要領 第1章 第1の第1項より]

また、指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項について、以下のように示されている。

各教科の指導に当たっては、児童の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、児童の言語事項を充実すること。

[小学校学習指導要領 第1章 第4の第2項より]

ここでは、各教科において思考力、判断力、表現力等を育成する観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語環境を整え、言語活動の充実を図ることに配慮が求められている。

加えて、言語に関する能力を育成する中核的な国語科において、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」のそれぞれに記録、要約、説明、論述といった言語活動を例示している。また、国語科以外の各教科においても、教科等の特質に応じた言語活動の充実について記述している。

(2) 学校教育目標との関わりから

本校の学校教育目標は、「よく考え よく思いやり 心身ともにたくましく 生きる力を備えた子どもを育成する」である。また、目指す子ども像は、以下の3点が掲げられている。

- ① 学習や読書にはげむ子〔かしこく〕
- ② 礼儀正しく思いやりがありきまりを守る子〔なかよく〕
- ③ 仕事や運動を根気強くがんばる子〔たくましく〕

これらの目指す子ども像に近づけるためには、知的活動（論理や思考）の基盤や、コミュニケーションや感性・情緒の基盤となる言語に関する指導を充実させていくことが、大変重要であると言える。

ア 知的活動（論理や思考）

- ・ 事実等を正確に理解すること
- ・ 事実等を解釈し説明するとともに、互いの考えを伝え合うことで、自分の考えや集団の考えを発展させること

イ コミュニケーションや感性・感情

- ・ 互いの存在についての理解を深め、尊重していくこと
- ・ 感じたことを言葉にしたり、それらの言葉を交流したりすること

(3) 研究の経過と児童の実態から

本校では、平成 21 年度までの 3 年間、「一人一人に確かな学力を育む学習指導～算数科において基礎・基本を活かすことができる児童を目指して～」をテーマに研究してきた。全体で研究を深め、効果を上げることができた。そして昨年度、「新学習指導要領完全実施に向けての実践研究」をテーマに、学習指導要領移行措置にともなう単元や内容の変更に対応できるように、理解を深めることができた。

本校児童は、言われたことに対しては熱心に活動することができる。しかし、自分から積極的に行動することが苦手であり、コミュニケーション能力不足から人間関係でつまづく場面も見られた。また、学習等において意見を交換したり、意見を述べたりする際の課題として以下の点が挙げられる。

- 自分の根拠を明らかにし、それを理由として分かりやすく伝える力
- 理由を添えて発表する力
- 理由づけを入れた発表の仕方
- 自分の考えを分かりやすく話す構成力
- 自分の考えを論理的に述べる力
- 友達の意見に対して、自分なりの考えをもち、述べる力
- 相手の考えをしっかりと聞く力
- 聞いて、発表者の意図を理解する力
- 自分の意見と比較して考えながら聞く力
- 様々な考え（意見）をまとめる力
- 見通しをもって話し合う力
- 疑問点や論点をはっきりさせて練り合う、話し合う力
- 話し合いの仕方（順序、進め方等）や話し合いの経験

また、昨年度の標準学力検査（CRT）の国語において、言語事項では全国平均と比較して高い水準を示したが、その他に関しては全国平均を変わらない結果となり、身につけた言語事項を十分生かし切れていない実態も見えてきた。

これらのことから、言語活動の充実を目指して、各教科の目標と指導事項との関連及び児童の発達段階や言語能力を踏まえた言語活動を計画的に位置付け、授業の構成や指導のあり方自体を工夫・改善していく。とりわけ本年度の研究においては、意見を述べたり、意見交換を充実させたりする土台を構成するために、1 単位時間において自分の思いや考えを「書く」活動を位置づけ、生きる力を育む学習指導のあり方について検証していく。

研究仮説

1 単位時間において、継続的に自分の思いや考えを「書く」活動を位置づけ、指導の工夫や改善を図っていくならば、自分の思いや考えを正確に伝え合える子どもを育成できるのではないだろうか。

研究の視点

思いとは、一般的に辞書で「考え、願望、気持ち、経験」、また考えとは、「考えること。また、考えて得た結論・判断・予測・決意」などと定義されている。各教科等の学習における思いや考えは、言葉を媒介として、言葉の意味や働き、言語の美しさを理解したり、言語感覚を身につけたりすることと深くかかわり、子どもたちの「もっと学びたい、表現したい、正しく伝えたい、よりよくありたい」などにつながると考えられる。

「思いや考えを伝え合う」とは、言葉を通して「もの・こと」への認識を深め、他と関わりながら感情をコントロールし、よりよい自分を表現しようとする子どもの姿につながると考えられる。

そこで、思いや考えを伝え合うためには、本校児童に次のような態度や能力が必要になってくるものと考えられる。

- ・ しっかりとした自分をもつこと（課題に対する自分の思い）
- ・ 相手にしっかりと話そうとする心をもつこと
- ・ 相手の話をしっかりと聞こうとする心をもつこと
- ・ 相手の立場や考えを理解しようとする言葉のやりとりをする力をもつこと

つまり、自分のことと相手のことをしっかり考え、言葉によって交流したり、自分の思いや考えを見直したり、新たな自分をつくったりできるようにすることが、思いや考えを伝え合う子どもの育成につながると考える。

思いや考えを伝え合う子どもを育成するためには、まず自分の思いや考えをしっかりとめさせることが重要である。また、授業においては、自分の意見に自信が持てず発表できない子どもたちが見られるため、発表しやすい雰囲気づくりをすることも重要である。

そこで、本年度の研究の視点を以下のように設定した。

視点① 自分の思いや考えを「書く」指導の充実

- ・ 1 単位時間における効果的な書く活動の位置づけ
- ・ ワークシートの活用
- ・ 自分の思いや考えを正確に伝え、交流させていく学習形態のあり方

視点② 発表しやすい雰囲気づくりの充実

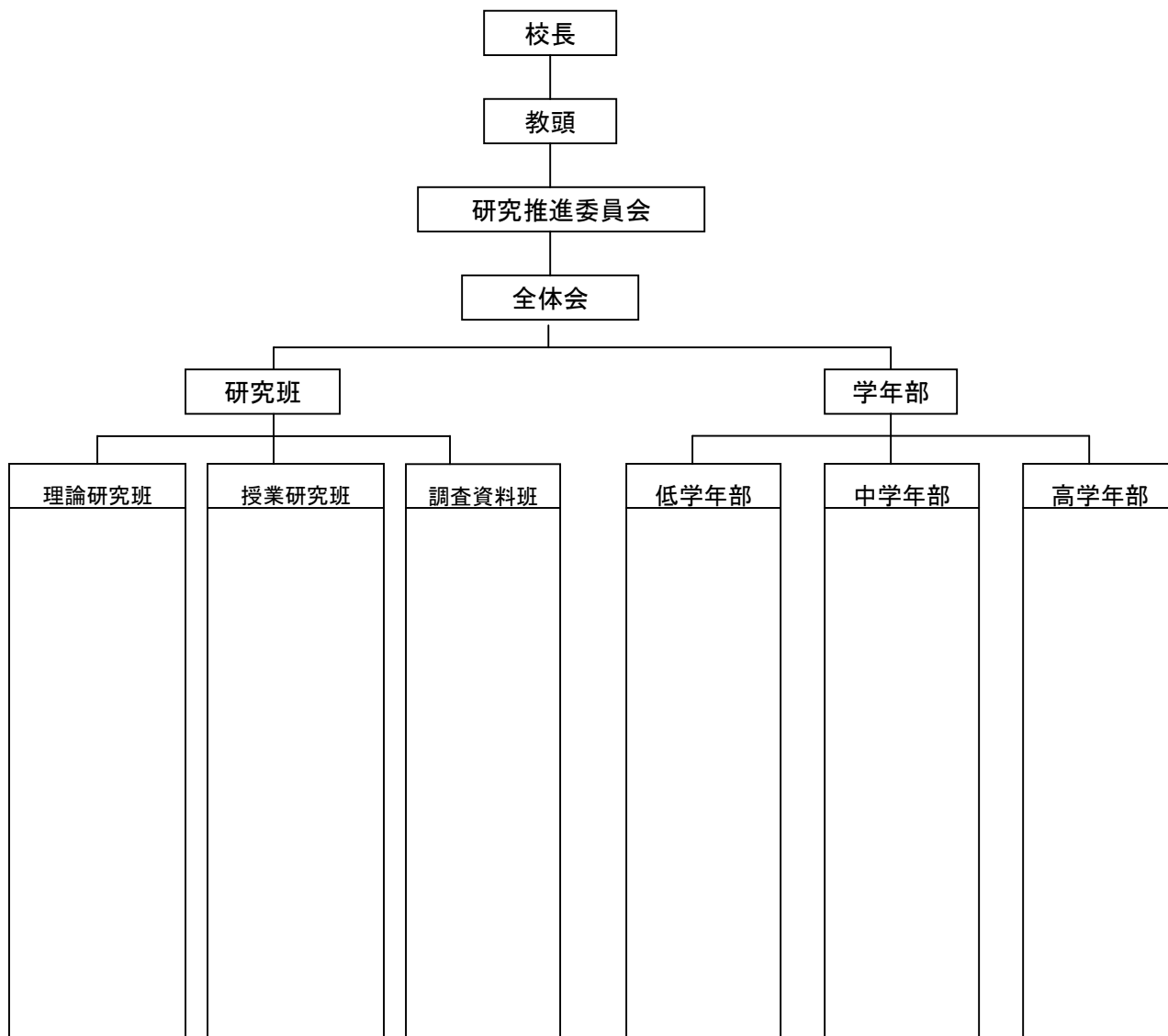
- ・ よさを認め合える場の工夫
- ・ 励ましや褒める言葉の工夫
- ・ 児童に自信をもたせる場の工夫

視点③ 学習の基本的なしつけの徹底

- ・ 学習の準備に関する指導（学習用具、机上の整理）
- ・ 発表の仕方、聞き方、声の大きさ、姿勢に関する指導

- あいさつに関する指導（はじめ，おわり，返事）
 - 効果的な掲示物の活用
- 視点④ 児童の実態調査と分析
- 年間を通した調査必要項目の設定
 - 教師と児童の意識の変容調査と分析
 - 聞き取り調査と分析，課題解決の研究

研究組織



※ 研究推進委員会参加者

校長，教頭，教務主任，研修係，各班の班長

※ 研究授業は，学年部を中心に授業研究班等と協力して行う。

各班の仕事分担

理論班	<p>研究推進のための理論研究を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 言語活動を充実させ、生きる力を育むための理論研究 研究の進め方の検討 研究授業の視点の検討
授業研究班	<p>理論を具体化し、授業で実践できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究授業の記録と授業研究会の運営 研究授業と授業研究の分析 教室掲示作成
調査資料班	<p>学習環境を整えたり実態把握をしたりして、自分の思いや考えを正確に伝え合う力を高める手立てを追究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 実態調査の作成，実施，分析（N R Tの詳しい分析，意識調査など） 環境の整備 資料の収集 ・ ホームページでの紹介

昨年度までの研修を生かした共通理解・共通実践事項

- 「学習の進め方」の活用
- 板書カードの活用
- ノート指導の充実（めあては青線，まとめは赤線）
- チャレンジタイムの実施
 - ・ 学年で統一して実施
 - ・ 100ます計算の活用，算数オリンピックの活用，うつしまる君の活用
 - ・ 個別指導の時間として活用
- 算数音読カードの活用
- 「家庭学習の手引き」の活用
 - ・ 昨年度理論班が作成したものを利用
- 算数コーナーの充実
 - ・ 各学年廊下掲示板を活用（算数部中心）
- 国語コーナーの充実
 - ・ 職員室前掲示板の活用（国語部中心）
- 校内俳句大会の実施
 - ・ 学期1回実施（国語部中心）

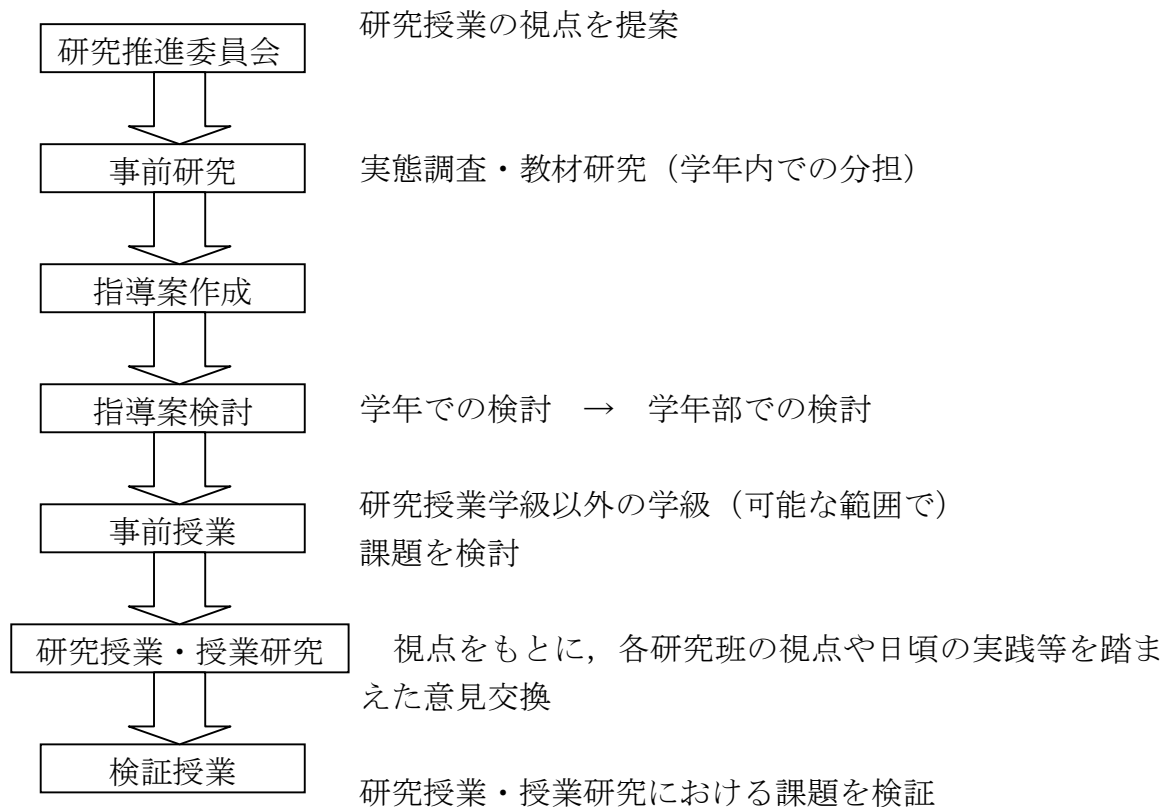
平成 23 年度職員研修計画

月	日	曜	形態	内 容	担 当
4	6	水	一般	教科部会・3部会	教務
	14	木	テーマ	研究推進委員会	研推委
	25	月	一般 テーマ	年間研修計画及び研究テーマについての提案及び 共通理解	研修係
5	12	木	テーマ	研究推進委員会	研推委
	16	月	一般	救急蘇生法講習	安全指導係
	19	木	テーマ	研究班会	研修係研究班
	23	月	一般	生徒指導・特別支援教育に関する共通理解 小中連携研修会打ち合わせ	生徒指導係 特支教育係 研修係
6	10	金	テーマ	研究推進委員会（指導案検討含む）	研推委
	13	月	一般	小中連携研修会（星峯中学校）	
	20	月	テーマ	研究授業（高学年部）	担当学年部
	24	金	テーマ	研究班会	研修係研究班
	27	月	一般	教科部会・3部会	教務
	28	火	一般	教科部会・3部会	教務
7	8	金	テーマ	研究推進委員会	研推委
	21	木	一般 テーマ	特別支援教育に関する研修 消費者教育に関する研修 研究班会	特支教育係 消費者教育係 研修係研究班
	22	金	一般	体育に関する研修 外国語活動（英会話）に関する研修	体育部 外国語活動係
8	1	月	一般	N R T分析 キャリア教育に関する研修	学年部 キャリア教育係
	19	金	一般 テーマ	作文指導に関する研修 テーマ研究	国語部 研修係
9	9	金	テーマ	研究推進委員会	研推委
	16	金	テーマ	研究班会	研修係研究班
	26	月	テーマ	テーマ研究	研修係
10	14	金	テーマ	研究推進委員会	研推委
	25	火	一般	幼小連携研修会	担当学年部
	28	金	テーマ	研究班会	研修係研究班
	31	月	一般	人権同和教育に関する研修（男女共同参画）	人権同和教育係
11	7	月	一般	生徒指導に関する研修	生徒指導係
	15	火	テーマ	研究推進委員会	研推委
	21	月	テーマ	テーマ研究（指導案検討含む）	研修係

	22	火	テーマ	研究班会	研修係研究班
	25	金	一般	教育課程について	教務
	28	月	テーマ	研究授業（低学年部）	担当学年部
12	9	金	テーマ	研究推進委員会	研推委
	19	月	一般	性教育に関する研修	保健指導係
	22	木	一般	教科・3部会	教務
	26	月	一般	教育課程について	教務
1	16	月	テーマ	テーマ研究（指導案検討含む）	研修係
	20	金	テーマ	研究推進委員会	研推委
	23	月	テーマ	研究授業（中学年部）	担当学年部
	27	金	テーマ	研究班会	研修係研究班
	30	月	一般 テーマ	職員研修の反省 次年度の職員研修について	研修係
2	10	金	テーマ	研究推進委員会	研推委
	20	月	一般	教科・3部会	教務
	21	火	一般	教科・3部会	教務
	27	月	一般 テーマ	職員研修のまとめ 次年度の職員研修について	研修係

～全員参加型の授業づくり～

○ 授業づくりの流れ



星峯西小学校 完結する授業をめざした学習指導過程

【ねらい】 明確な目標のもと、内容や活動、時間等がバランスよく配分され、「分かる授業」「できるようになる授業」の展開をめざす。

《バランスのとれた完結する授業》

- 1 学習の目標が明確な授業
- 2 解決の手順や方法が分かり、自力解決の場合がある授業
- 3 意欲的に相互解決する場合がある授業
- 4 「わかる」まで教師がしっかり見届け、まとめる授業
- 5 「できる」まで補充・定着・発展的な指導がある授業

過程	児童の学習活動	時間	指導上の留意点
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> ○レディネスを行う。 ○一人ひとりが課題に関心をもち問題解決への意欲をもつ。 ○「学習のめあて」を立てる。 <div style="border: 1px solid blue; padding: 2px; margin: 5px 0;">めあては青線</div>	5分程度	<ul style="list-style-type: none"> ◇レディネスが揃っているか。 ◇前時までの学習を確認(想起させる)する。 ◇課題の提示を工夫して意欲付けを行う。 ◇興味・関心を喚起して明確な問題意識を形成し、何を学習するのか明確につかませる。
見通す	<ul style="list-style-type: none"> ○解決への計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・既習内容を基に、いろいろな方法を考える。 ・一人ひとりが解決の見通しを立てる。 ・答えを予想する。 	30～35分程度	<ul style="list-style-type: none"> ◇自力解決ができるように多様な考えや種々の反応を引き出せるように工夫する。 ◇構造的な板書(計画)で1時間の学習の進め方を分かりやすく提示する。 ◇どんな活動をしていくのか、どうすれば解決できそうかなど学習の見通しを持たせる。 ◇課題解決のための視点を明確にする。(共通基盤づくり) ◇個別、グループ等に指導助言し、補助プリント(ワークシート)を与える。 ◇ワークシートは、課題追究の仕方や過程が分かる、ヒントとなるようなもの(一人調べの助け)を工夫する。
調べる	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えた方法で解く。 <ul style="list-style-type: none"> ・自立解決にねばり強く取り組む。 ○自分の考えが発表できるようにノートやワークシートなどにまとめる。 		
深める	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えた方法を発表し、練り上げる。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを発表する。 ・友達の発表を聞く。 ○よりよい方法をまとめる。(学習内容の整理・統合・まとめ) ○学習したことを使って練習問題を解く。 	5分程度	<ul style="list-style-type: none"> ◇見通しに従って、自力解決させる。 ◇ヒントコーナーを設けて、多様な考えが導けるようにする。 ◇授業内容の構造的な板書をする。 ◇授業内容のポイントとなる部分を確実にノートさせる。(ノート指導の充実) ◇子どもの考え方や処理の仕方を類型化し、発表の際に生かす。 ◇自力で解決してきたことを筋道を立てて説明できるように援助する。 ◇自他の解決方法を比較させる中で、考え方の異同を明確にし、よりよい解決方法を練り上げさせる。 ◇子どもの考えを、子どもの言葉で分かりやすく、よりよい方法としてまとめる。 ◇個別指導を徹底する。
広げる	<ul style="list-style-type: none"> ○板書や適用問題を振り返り、学習のまとめをする。 <div style="border: 1px solid red; padding: 2px; margin: 5px 0;">まとめは赤線</div>		
振り返る	<ul style="list-style-type: none"> ○次時の学習を知る。 		<ul style="list-style-type: none"> ◇本時の学習を振り返らせて、分かったことを自分の言葉でまとめさせる。 ◇次時の学習内容を確認させる。

※ 評価 本時のめあてを達成できたかどうか、yes or no で確認できる表現で!。(～したか、～できたか)

第6学年 国語科学習指導案

平成23年6月20日(月) 5校時

1 単元 相手の意図を聞き取り、自分の主張を伝えよう

(教材 「学級討論会をしよう」「伝えにくいことを伝える」光村6年)

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

子どもたちは5年「きいて、きいて、きいてみよう」で互いをよく理解するという目的意識のもと「きくこと」について学習している。また、5年「豊かな言葉の使い手になるためには」において、自分の意見とその意見に至った理由をはっきりさせて討論するという学習をしている。

そこで、これらの学習を振り返り、目的意識をもって聞くことや理由をつけて話すことの大切さを確認した上で本単元の学習に入り、対立する立場の論点や争点をはっきりとさせながら、ルールに沿って討論し、納得のできる解決策を見いだす力を身に付けさせたい。また、小学校の「話し合い」の能力における完成段階として、ひとつの問題に対して多面的な検討を加え、話し方を工夫しながらより多くの人を納得させるための話し合いを計画的に進める能力を育てたい。同時に聞く立場にも焦点を当て、聞き取りの観点をもち議論を評価しながら聞く態度と能力を育成したい。

(2) 指導の基本的な立場

本単元は、「学級討論会をしよう」とコラム「伝えにくいことを伝える」の二教材で構成されている。

「学級討論会をしよう」は、児童にとって初めての経験である、肯定・否定の2グループに分かれて討論会することを目的とした教材である。「討論会の進め方」に沿って確かな根拠を示しながら自分の意見を主張することを学習させると同時に、話し手の主張と根拠を正確に聞き取り、その意見は筋が通っているのか、説得力をもつものなのか、自分の意見との違いは何かを判断する力を身に付けさせたい。また、これまで経験してきた学級会などでは、お互いの意見の相違をはっきりさせながらも、話し合った結果を多数決等でひとつに決定しなければならなかった。しかし、今回学習する討論では対立する立場の論点や争点をはっきりとさせながら話し合い、お互いが納得のできる解決策を見出ししていく。学級会との違いをはっきりさせて討論会の手順を理解させたい。

「伝えにくいことを伝える」は普段の生活の中でもよくある、友だちに言いにくいことを言うとき、どのような伝え方をすればよいかを考える教材である。「自分に用事があるときに遊びの誘いを断るにはどのように言えばよいか」などといった身近な生活場面を取り上げ、相手に正確に、かつ冷静に受け止めてもらうためには、言葉や表現を選ぶ必要があることを学ばせたい。また、普段の生活の中でも必要な配慮であることも合わせて学習させたい。

以上のことから、自分の主張や意見を相手に伝える際には、根拠を明確にして説得力のある話し方をすることが大切であるとともに、相手の主張や意見にも十分耳を傾けることも大切であることを基本に学習を展開していく。

具体的には第1時で、これまでに学習してきた計画的に話し合うことや、話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べながら考えをまとめることが大切であることを振り返らせる。その後、討論会のねらいや準備、役割の分担について確認させる。

第2時では、CDを聞いて討論会の進め方を確認させ、発言や質問の仕方についてどのようなことに気をつければよいかを話し合い、確認させる。

第3～4時ではそれぞれテーマを決めて、「肯定」「否定」「聞く」3つのグループに分かれ、実際に討論会を行う。討論会の流れを身に付けさせるとともに、相手を納得させるためにはどのように話せばよいか、相手の主張との違いは何かなどについて考えながら討論会を進めるようにする。

第5時では最後の学級討論会に向けた準備をさせる。テーマに対して多様な角度から意見が言えるように資料を調べたりインタビューをしたりして、最後の討論会が深まりのあるものになるようにする。

第6時は討論会の集大成となるようにしたい。経験してきた討論会の反省を十分に生かして討論が行われ、双方が納得いくような新たな考えが生まれるようなものにしていく。

第7時では、討論会の時に言い争いのようなになった経験を想起させ、言いたいことを言葉や表現を選びながら相手に伝えることの大切さを身に付けさせる。

このような学習を通して自分の意見や主張を積極的に伝えたり、場面に応じた話し方や表現を工夫したり、また、相手の考えを正確に聞き取ろうとしたりする態度が身に付き、子どもたちの言語活動がより豊かなものになると考える。

3 子どもの実態 (数字は人数を示す。 調査日： 6月7日(火) 調査人数35名)

本学級の子どもたちが、本単元の学習や教材についてどのような意識を持っているか調査した結果は次の通りであった。

① 文章を書くことは好きですか	<ul style="list-style-type: none"> ・とても好き 8 ・あまり好きではない 14 ・嫌い 1
「あまり好きではない」「嫌い」の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・何を書いてよいか分からない 11 ・時間がかかる 3 ・その他 1
② 発表することは好きですか	<ul style="list-style-type: none"> ・とても好き 10 ・あまり好きではない 16 ・嫌い 3
「あまり好きではない」「嫌い」の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・恥ずかしい 15 ・自信がない 4
③ 話し合うことは好きですか	<ul style="list-style-type: none"> ・とても好き 12 ・あまり好きではない 10 ・嫌い 5
「あまり好きではない」「嫌い」の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を言うのが恥ずかしい 6 ・自分の意見に決まらなかったら嫌な気がする 4 ・その他 5

- 子どもたちの約半数は書くことに苦手意識をもっている。その理由の多くは「何を書いてよいか分からない」というものであった。友だちどうし話し合わせたり、時にはノートを見せ合ったりさせ、書く機会を多く取り入れることにより少しずつ慣れさせていきたい。また、書くことの「よさ」を感じるのは「人に誉められたとき」と多くの子が答えていた。少しでも書けたらノートに○をつけるなどして称賛し、書く意欲を高めたい。(①より)
- 半数以上の子が発表することに苦手意識をもっている。授業においてもよく発表してくれる子が固定化されつつある。恥ずかしさや自信のなさが大きな原因であるようだ。発表させる前に「書く」活動を効果的に取り入れ、ノートに○をつけたり称賛したりして発表へとつなげたい。また、発表に慣れさせるために意図的な指名も取り入れたい。(②より)
- 話し合うことについても15名が消極的なようだ。恥ずかしさを克服させるためにペアやグループで発表の練習をする活動を取り入れていきたい。また、自分の意見に決まらないのが嫌だという意見にも注目したい。多数決で決めることが多かった今までの話し合い活動のことが頭にあるようだ。お互いに意見を言いながらまた、考え方の相違に気をつけて聞きながら、よりよい方向に練り上げていくのが討論のよさであることに気づかせていきたい。(③より)

4 指導上の留意点

以上のことから指導にあたっては、相手を納得させるような話し方を工夫したり、自分の意見との相違点に留意して友だちの意見を聞いたりする力をつけさせるために、学習内容設定や指導方法を以下のように工夫していきたい。

- ア 自分の意見を意欲的に発表できるように、発表の前に「書く」活動を効果的に取り入れたい。また、それを称賛することにより自信をつけさせ、発表への意欲づけをしたい。
- イ 相手を納得させる話し方について繰り返し指導していきたい。「意見を先に、理由を後に」「体験・エピソードを入れる」などCDを聞かせたり、討論をとめて考えさせたりして身につけさせたい。
- ウ テーマに関して多面的に考えることができるようにするために、肯定、否定両方の立場で意見やその理由を考えさせるようにする。
- エ 友だちの意見をメモさせ、よく聞くことが習慣になるようにしたい。
- オ 事前に調べ学習が必要なテーマについても討論させ、具体的な事実をもとに意見を述べられるようにしたい。
- カ 自分の意見を正確に、相手を納得させるように話すことも大事だが、状況によっては表現や言葉遣いにも気を配らなければならないことをロールプレイなどによってつかませるようにしたい。

5 目標

- 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に討論会をすることができる。
- 聞き手を納得させるような話し方を工夫することができる。
- 討論会の話題に沿って、話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べながら考えをまとめることができる。
- 場に応じ、また相手の気持ちを考慮した言葉遣い言いたいことを伝えることができる。

6 指導計画（全7時間）

過程	時間	主な学習内容	指導上の留意点	書く・伝え合う活動
つかむ	1	○ 討論会のねらいや準備、役割分担について確かめる。	・今までの話し合い活動などで学んできたことを振り返らせる。	・話し合うときの留意点をノートに書き、発表する。
	2	○ CDを聞いて討論会の流れをつかみ、話し方や意見のまとめ方の工夫に気づく。	・CDを途中でとめたり、部分的に繰り返し聞かせたりして自ら気づくようにする。	・「工夫」や「よさ」について気づいたことをノートにメモし、発表する。
深める	3	○ 1回目の学級討論会をする。テーマ「学級文庫にまんがを置いていいか」	・流れを確認しながら会を進めるようにする。	・自分や友だちの意見やその理由をノートに書き、発表するときの材料とする。
	4	○ 2回目の学級討論会をする。テーマ「大人と子どもどちらが得か」	・肯定、否定以外の討論にも取り組ませる。	・相手を納得させる話し方を工夫して発表をする。
	5	○ 3回目（最後）の学級討論会へ向けて準備をする。	・前回の反省を生かすようにする。	・自分や友だちの意見やその理由をノートに書き、発表するときの材料とする。
	6 本時	○ 3回目（最後）の学級討論会をする。テーマ「東日本大震災に関して、今私たちがすべきなのはボランティアか節水・節電か」	・前日に3回目のテーマを伝えて、家庭学習で調べたり、家の人に聞いたりさせておく。 ・ノートを見せ合ったり、グループで教え合ったりしながらテーマに関する情報を交換させる。	・相手を納得させる話し方を工夫して発表をする。
振り返る・生かす	7	○ 相手に正確に伝わり、かつ冷静に受け止めてもらえるような言葉や表現について考える。	・「ゴミを分別せずに捨てようとしている友だちに注意をする」などという具体的な場面を示し、意欲的に考えられるようにする。 ・グループでロールプレイをさせるなどして場面に応じた話し方を工夫させる。	・友だちの話し方を聞いて気づいたことをノートに書き、発表する。

7 本時（6／7）

(1) 目標

- 相手を納得させるような話し方を工夫して意見を発表することができる。
- 自分の考えとの相違点は何かを考えながら友だちの意見を聞くことができる。
- 場に応じて適切に書いたりメモしたりすることができる。

(2) 本時の指導にあたって

- 多くの意見をもつことができるように事前にテーマに関する調べ学習をさせておく。
- 多様な角度からテーマについての意見をもてるように友だちどうし話し合ったり、ノートを見せ合ったりさせる。
- 話型を示すなどして、初めの主張、最後の主張、まとめの時、上手くまとめられるようにする。

(3) 実際

過程	主な学習活動	時間	教師の指導・支援
つかむ・見通す	1 これまでの学習を振り返る。 2 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> 相手を納得させる話し方を工夫し、自分の考えと比べながら聞こう。 </div> ～討論のテーマ～ 東日本大震災に関して・・・ 「今、私たちがすべきなのは節水・節電かボランティアか」 3 本時の流れをつかむ。		<ul style="list-style-type: none"> ○ 討論に必要なグループ，説得力のある話し方，自分の考えと比べながら聞くことなどを確認する。 ○ 最後の討論会なので，事前に調べ学習が必要なテーマを選ぶ。 ○ 事前に震災に関する調べ学習をさせ，情報を蓄積させておく。 ○ 討論がどの段階にきているかが一目で分かるように，流れを掲示しておく。
深める	4 それぞれの立場でその理由を考え，ノートに書く。 5 流れに沿って討論会をする。 ① 初めの主張をまとめる ② 初めの主張をする（意見グループ） ③ 質問とその答え ④ 意見グループによる発表 ⑤ 最後の主張をまとめる（意見グループ） ⑥ 最後の主張をする（意見グループ） ⑦ 「まとめ」に向けた相談をする（聞くグループ） ⑧ まとめ（聞くグループ）		<ul style="list-style-type: none"> ○ 意見の違いを認めた上で自分の立場を明確にするために2つの立場で理由を考えるようにする。 ○ 多くの意見を持ち，また考えを深めることができるように，話し合ったりノートを見せ合ったりしてもよいことを伝える。 ○ 自信をもって発表できるように，机間指導をしながらノートに○をつける。 ○ それぞれのグループで相談をし，初めの主張，発表者を決めさせる。 ○ 聞くグループにはメモをしながら質問の内容を考えさせる。 ○ 聞くグループが意見グループに質問をし，意見グループに答えさせる。 ○ なるほどと思った意見はメモさせる。（全員） ○ 3グループで自由な意見交換をさせる。 ○ めあてにつながる発表ができたときは教師が介入し，どこがよかったのかを考えさせる。 ○ それぞれのグループで相談をし，最後の主張，発表者を決めさせる。 ○ 聞くグループにはまとめを考えさせる。 ○ どのようなまとめにするか相談させる。（聞くグループ） ○ 意見グループには今日の討論会の反省をノートに書かせる。 <p>主張の一番の違いは何か，双方が納得するには，という視点でまとめさせる。</p>
ふりかえる	6 本時のまとめをする。 ○ 意見を先に，理由を後に発言すると，説得力がある。 ○ 自分の意見との違いを考えながら聞くことが大切である。		<ul style="list-style-type: none"> ○ 討論会全体をみて教師がまとめる。 ○ よかった意見，なぜよいのかなど具体的に取り出して賞賛する。

(4) 評価

- 相手を納得させるような話し方を工夫して意見を発表することができたか。
- 自分の考えとの相違点は何かを考えながら友だちの意見を聞くことができたか。
- 場に応じて適切に書いたりメモしたりすることができたか。

第2学年 国語科学習指導案

平成23年11月28日(月) 5校時

- 1 単元名 分かりやすくせつめいしよう
「おもちゃの作り方」

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

本単元は、しかけカードの作り方を説明した教材文「しかけカードの作り方」で学んだことを生かして、おもちゃの作り方を文章の組み立てや順序を考えながら書くという内容になっている。

「しかけカードの作り方」では、児童は初めて「手順を読む」経験をすることになる。「材料と道具」「作り方」「使い方」の大きく3項目に分けられていて、読み手は実際に材料と道具を用意し、文章の通りに手を動かしながら読むことによって、書かれていることを正確に理解することができる。その手順の読解が、本単元「おもちゃの作り方」で、児童一人一人が自分のおもちゃの作り方を書く活動につながる。「手順ごとに書かれた文章を読む」ことで理解したことを、今度は書くことで確かめ、定着させることができるものと考えられる。

(2) 指導の基本的な立場

前単元が「しかけカードの作り方」であることから分かるように、ここでは、前単元で学んだことを活用しながら学習を進めていきたい。教科書の作例は「けん玉の作り方」だが、児童が生活科や図画工作科でこれまでに作ったものを題材にし、児童の「書きたい。」という意欲をかきたてたい。

また、本教材では「手順」に視点を定めて指導したい。単なる順序では「その前に〇〇する。」といっても大問題にはならないが、「〇〇の作り方」のように手順を追う際には、作り直しが必要になる。そのため、読んで作る人のことを考えて文を書くようにしたい。自分が書き上げた手順の文章で友達に作品を作ってもらうことで、自分の書き方の良し悪しを振り返ることができ、どのように書くと読み手に伝わる文章になるのか、考えることができる。

前単元で写真と文章を合わせて読む学習をしているので、必要な絵や写真についても考える良い機会にしたい。

さらに、明確な構成を考えて文章を書くことは、話すことにも役立つ。概要、準備、作業の手順・・・と進む、内容の進行は、人に何かを説明する時の典型的な展開の一つとなる。自分が作業したことを的確に表す言葉の選び方や、手順がよく伝わる文の順序などをよく考えさせ、より分かりやすく相手に伝わる説明の仕方を身につけることができる。

3 子どもの実態 (調査日 11月1日 調査人数28名)

本学級の子どもたちが、教材についてどのような意識を持っているか調査した結果は以下の通りである。

- ① これまで学習した単元の中で、好きなものはどれですか。(いくつでもよいです。)
- ・スイミー (21人) ・ともさんはどこかな (21人)
 - ・カンジ―はかせ (15人) ・あったらいいなこんなもの (13人)
 - ・どうぶつ園のじゅうい (13人) ・かんさつ名人になろう (8人)
 - ・たんぽぽのちえ (6人)

《考察》

- ◎ 子どもたちは、やはり「スイミー」や「お手紙」などのお話が大好きである。「ともさんはどこかな」も、アナウンスを聞いてともさんの特徴を聞きながら探すゲーム感覚の教材で、楽しみながら学習していた。しかし、「かんさつ名人になろう」の書く活動や「たんぽぽのちえ」の説明文の読み取りは、苦手に行っている児童が多い。

② あなたは、りんごとバナナ どちらが好きですか。好きな方に○をつけましょう。また、好きなわけも書きましょう。

() りんご () バナナ

・そのわけ

《考察》

◎ りんごが好きな子も、バナナが好きな子も、両方とも全児童が「～から」を使って理由を書くことができた。

(記入例)・りんごはしゃきしゃきしておいしいから。

・バナナはやわらかくて食べやすいから。

・りんごをかじると、しるがいっぱいできてとってもおいしいから。

・りんごはあまくておいしいし、1こを8とうぶんにして食べられるから。

③ つぎの()の中にあてはまることばを入れましょう。

わたしは、教室のそうじをしました。

(), ぞうきんをあらいました。

(), ゆかをきれいにふきました。

教室がきれいになりました。

《考察》

◎ 児童に()にあてはまるつなぎ言葉を入れるように指示をしなかったため、半分以上の児童がつなぎ言葉を使用していなかった。「まず」「つぎに」「さいしょに」「それから」などのつなぎ言葉を使って文章を書いたのは5名だった。教科書などでは、つなぎ言葉の大切さを何度も学習し、つなぎ言葉を使った短作文作り等もよくできるが、普段の生活でつなぎ言葉を使った文を書いたり話したりすることにはあまり慣れていないと言える。

(記入例)・(わたしは), ぞうきんをあらいました。

・(ぞうきんで), ゆかをきれいにふきました。

・(水で), ぞうきんをあらいました。

・(手で), ゆかをきれいにふきました。

・(さいしょに), ぞうきんをあらいました。

・(それから), ゆかをきれいにふきました。

・(まず), ぞうきんをあらいました。

・(つぎに), ゆかをきれいにふきました。

④ 1年生に「正しい手あらいのしかた」を教えてあげようと思います。あなたなら、どのように教えてあげますか。

(記入例)・まず、手を水にぬらします。つぎに、せっけんをとってごしごししてあわをつくりま

そして、あわで手をきれいにあらいます。さいごにあわをきれいに落とします。

・まず、手を水にぬらします。そのつぎに、せっけんをつけます。そのつぎには、手の上をあらいます。そのつぎには、一本ずつゆびをあらいます。あとは、せっけんをながせばおわりです。

・まず、手を水にぬらします。そのあと、手にあわをつけてこすっていきます。まず、ゆびのあいだをあらいます。そして、手のひらと手のこうをあらい、手くびをあわでこすって、そして水でながします。ながす時もこすります。さいごに、タオルでふきます。

《考察》

◎ ほとんどの児童が、つなぎ言葉をうまく使って手洗いの仕方を書くことができているが、順序がうまく組み立てられていなかったり、説明不足で、読んでみてよく意味が分からなかったりする文も多く見られた。また、どうやって書いたらいいか理解できていない児童もいた。

物事の手順を書く活動は、児童にとって初めてのことである。下巻「主語と述語」で整理した通り、作り方の説明においても、「何が(は)どうする」といった主語と述語を呼応させることも意識して書かせるようにしたい。

4 指導上の留意点

本単元では、前単元の「しかけカードの作り方」の説明文の読み取りの段階から、段落のまとまりや文章の構成に目を向けさせながら、最終的な活動である「おもちゃの作り方を分かりやすく説明する文章を書くこと」を意識させておくことがとても大切である。そのために、学習内容設定や指導方法を以下のように工夫していきたい。

- ア 児童が大好きな「おもちゃ」そのものが持つ魅力を大いに活用して、そのおもちゃの作り方を書いて相手に伝えたいという児童の意欲を高めていきたい。
- イ 前単元で学習した「しかけカードの作り方」の説明の書き方が、本単元の「おもちゃの作り方」の説明書でどのように生かされているかをしっかりとおさえ、「せつめいのこつカード」と照らし合わせながらじっくりと読ませていきたい。
- ウ 作り方の説明書を書くおもちゃの選択については、生活科で自分が作ったことのあるおもちゃの中から選ぶようにして、教師が把握できるようにしたい。
- エ どの児童がどのおもちゃを選んでいるか、そのおもちゃの説明の難しさはどこか、一人一人の学習の進み方はどうか、どこでつまづいているかなど、ノートや学習活動の様子などから教師が捉え、個に応じた指導・支援に生かしていきたい。そして、児童一人一人に書いてよかったという満足感を味わわせたい。
- オ 「おもちゃの作り方」を書く際には、説明するまとまりごとに色分けし、カードを説明の順番に並べて、分かりやすい組み立てを考えさせたい。
- カ 自分の書いた説明書を「せつめい書チェックカード」で自己批評し、友達と説明書を読み合うことを通して、内容や書き方の工夫などについて気付くことができるようにしたい。

5 目標

- おもちゃの作り方や遊び方に興味を持ち、学習したことを生かしながら、分かりやすくおもちゃの作り方を説明しようとするができる。【関心・意欲・態度】
- おもちゃの作り方や遊び方を、内容のまとまりごとに幾つかに分けて、手順に沿って分かりやすく書くことができる。【書く】
- おもちゃの作り方の説明書を読み合い、読んだ感想を伝え合うことができる。【話す・聞く】
- 順序を表す表現（つなぎ言葉）を用いて、説明書を書くことができる。【言語】

6 指導計画（全6時間）

過 程	時 間	主 な 学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点 【評価項目】（方法）	書 く ・ 伝 え 合 う 活 動
つ か む	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習課題を確認し、学習計画を立て、見通しを持たせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 分かりやすいおもちゃのせつめい書をつくろう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ なかむらさんの説明書を読んで「せつめいのくふう」を確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通しが持てるように、学習の進め方を印刷して配り、ノートに貼らせる。 ・説明書を書く相手意識を明確にする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> ○例文を読んで、「せつめいのくふう」の使い方を確かめている。【読む】（観察・発言） </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・なかむらさんの「けん玉の作り方」を読んで、気付いたことを発表し合う。 ・一つのことを説明するのに他にどんな表現の書き方があるか、ノートに書く。

深 め る	2	○ おもちゃの作り方の説明書を、「せつめいのくふう」を使いながら分かりやすく書く。 (1) 前書きと出来上がりの絵を書く。 (2) 材料と道具を書く。 (3) 作り方を書く。 (4) 遊び方を書く。	・誰がどのおもちゃを選んでいるか把握しておく。 ・説明書の4つのまとまりごとに色を変えた短冊カードを準備しておく。	・作り方の工程を、3～5にして、一工程を短冊カード一枚に文と絵で書く。
	3		<div data-bbox="743 389 1445 474" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">おもちゃの説明書を、まとまりに分けて順序を考えながら書いている。【書く】(短冊カード)</div>	<div data-bbox="1114 495 1461 663" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">○説明書を読み合い、読んだ感想を伝え合っている。 【話す・聞く】(チェックカード・観察)</div>
	4		<div data-bbox="743 483 1091 595" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">・遊び方の後に、アイデアの文を入れるとよいことを提案する。</div>	
深 め る	4 本 時	○ アドバイスの仕方を全体で確かめた後、「せつめいしよチェックカード」で説明書をチェックする。	・友達と説明書を読み合うことを通して、内容についての書き方がどうか、気付くことができるようにする。	・同じおもちゃや、違うおもちゃの説明書どうしてペアを作り、お互いに批評し合う。
	5	○ 書いた短冊を、順序良く貼り説明書を完成させる。(清書する。)	<div data-bbox="743 891 1091 1151" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">○カードをもとに、必要な事柄を落とさずに順序や組み立てに気をつけて、おもちゃの作り方を知らせる文章を書くことができる。【書く】(ワークシート)</div>	<div data-bbox="1114 891 1461 1070" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">○説明書を読み合い、読んだ感想を伝え合っている。 【話す・聞く】(チェックカード・観察)</div>
ふ り 返 る ・ 生 か す	5		・友達と説明書を交換し合い、いろいろな視点で感想を伝え合うことができるようにする。	・説明書が完成した後、友達と感想を言い合い、考えたことや思ったことを書く。
	6	○ 自分が一年生にすすめたいおもちゃの説明書を書く。	・これまでに生活科や図工で作ったことのあるおもちゃの作り方を思い出して書く。 ・「せつめいのくふう」をカードにしたり、教室に掲示したりして、今後も文章を書くとき、他教科や日常の生活で活用できるようにする。	・付箋に友達の書いた説明書のよいところを書くことで、互いの表現のよさに気付くことができるようにする。
				<div data-bbox="943 1749 1445 1883" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">おもちゃの作り方の説明を、手順に沿って、説明の工夫を用いて文章を書くことができる。【書く】(説明書)</div>

7 本時

(1) 目標

- 説明書を読み合い、読んだ感想を伝え合うことができる。【聞く・話す】
- アドバイスを取り入れて、わかりやすく書きなおすことができる。【書く】

(2) 本時の指導にあたって

- 批正する際のペアの組み方を、児童の実態を考慮しながら編成しておく。
- アドバイスの仕方や、やりとりの仕方の文例などを掲示し、全体でしっかりと確認する。

(3) 実際

課程	主な学習活動	時間	教師の指導・支援
つかむ・見通す	<p>1 これまでの学習を振り返る。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">せつめい書の下書きを読み合い、アドバイスし合おう。</div></p> <p>3 本時の流れをつかむ。 (1) お互いに読み合う。 (2) チェックカードをもとにアドバイスする。 (3) アドバイスをもとに、わかりやすく書きなおす。</p>	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を思い出し、学習計画を確認することで本時の学習課題を立てることができるようにする。 ・本時の学習の流れを提示することで、本時の学習活動の展開や方法について確認できるようにする。
深める	<p>4 ふるうちさんの「せつめい書のくふう」をみんなで確かめる。</p> <p>5 説明書を友達と交換し、「せつめい書チェックカード」を使って読み合う。 ・じゅんじょをあらわすことばをつかって書いてあってよかったです。 ・数字が書いてあったのでわかりやすかったです。 ・～のところをもっとくわしく書いたほうがいいと思います。</p> <p>6 アドバイスを取り入れながら、わかりやすく書きなおす。</p>	35分	<ul style="list-style-type: none"> ・説明書を、4つのまとまりごとに色を変えた短冊カードに、書かせておく。(なかなか書けない児童に対しては、ワークシートを準備して書かせておく。) <ol style="list-style-type: none"> 1 前書き (ブルー) 2 材料と道具 (ピンク) 3 作り方 (イエロー) 4 遊び方 (グリーン) ・友達の説明文のいいところを確認する「せつめい書チェックカード」を使うことで、良さに気付くことができるようにする。 ・アドバイスのやりとりの仕方を、しっかりと確認しておく。 ・書いた説明文を書画カメラで掲示し、他の友達の説明文の良さに気付くことができるようにする。 ・一文、二文と直す場合は、短冊カードの絵はそのままにして、新たな短冊カードの説明の部分だけ直すようにする。(児童の抵抗・負担を減らすため)
ふりかえる	<p>8 本時のまとめをする。 ・今日の学習で～ということがわかりました。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">5つのせつめいのくふうをつかみ、見なおしをすると、わかりやすいせつめい文が書ける。</div></p>	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りカードに記入することで、児童の思いやまずきを受け止めて、評価したり、次の指導に生かしたりできるようにする。

(4) 評価

- 説明書を読み合い、読んだ感想を伝え合っている。【聞く・話す】
- アドバイスを取り入れてわかりやすく書きなおしている。【書く】